

平成 26 年度研究プロジェクト  
「サハラ地域におけるイスラーム急進派の活動と資源紛争の研究」分析レポート

## サハラを渡る物

鳥取大学地域学部准教授  
茨木 透

本報告は、近年のサハラ砂漠中央部における商品の移動についての調査の中間報告である。中央サハラを南北に結ぶいくつもの交易路では、かつてのラクダの隊商が活躍していた時代から、さまざまな物が運ばれていた。この地域が国境で分断された今日も、ラクダの隊商がトラックに転換したことで輸送能力は格段に向上し、かつてとほぼ同様のルートで大量の商品が移動している。運ばれる主要な物として、北のマグレブ側、すなわちリビアやアルジェリアから南のニジェールおよびマリには、食料品、石油、高級車、そして武器などが、南のサヘルから北へは熱帯のさまざまな産物、サハラやサヘルの家畜、外国産のタバコ、そして麻薬などがある。以下、食料品、家畜、石油、高級車の移動について概観した後、タバコについて検討する。非合法である麻薬や武器の移動については、具体的なデータが乏しく、最後に簡単に触れるにとどめたい。

### 1. 食料品

アルジェリアおよびリビアからは、小麦粉およびクスクスやマカロニなどの小麦製品、砂糖、食用油、粉ミルクなどの基礎食料品が周辺諸国に運び出されている。国境を越えて運び出される理由として、アルジェリアおよびリビアではこれらの食料品に補助金をつけ、低い価格に維持されていることがあげられる。国境をまたぐ価格差がその理由の第1である。第2の理由として、輸送の問題がある。マリ北部やニジェール北部地域へは、それぞれの国の首都であるバマコやニアメからよりもアルジェリアやリビアの南部の都市からのほうが、距離的に短いだけでなく、道路事情から考えても輸送ははるかに容易である。その結果、サハラに点在するオアシス都市は、すでに数十年間にわたり、北からの食料に全面的に依存している。ただし、アルジェリア政府は補助金のついた食料品の輸出を禁止している。したがって、それぞれの国内での移動はなんの問題もないが、国境を越えることは違法である。

### 2. 家畜

サハラ・サヘル地域で育てられた、ヒツジ、ヤギ、ラクダなどは、アルジェリアやリビアで食肉用としての需要が高く、大量の生きた家畜が北へ向け輸出されている。輸出された家畜は国内での取引価格よりも有利な価格で取引される。家畜の移動に関しては、輸出することに何の制限もないので完全に合法である。

### 3. 石油

産油国であるアルジェリアやリビアでは、国内で販売される石油製品は驚くほど安価である。2014年7月末のガソリン1リットルの価格は、アルジェリアで0.27ドル<sup>1</sup>、リビアでは0.12ドルである。一方、石油を産出しないマリのガソリン1リットルの価格は1.43ドル、ニジェール

のそれは 1.13 ドルである。この国境をはさんだ価格差が、石油製品の密輸の最大の理由である。密輸入した石油の国内での流通・販売も違法ではあるが、事実上黙認され、堂々と取引されている。なお、とくにニジェール南部では、アルジェリアやリビアに加え、ナイジェリアからも石油製品が密輸入されている。ナイジェリアのガソリン 1 リットルあたりの価格は 0.59 ドルである。

#### 4. 高級車

少なくとも 1980 年代後半にはすでにヨーロッパで盗まれた高級車はサハラを南下し、西アフリカの市場で売りさばかれていた。近年はさまざまな取引で得たリビアやアルジェリアの通貨・ディナールを運び出す手段として、高級車を購入し、それをニジェールやマリなどまで運んで通貨・セーファーに換金するという方法がみられるようになった。

#### 5. タバコ

外国製タバコに関して、アルジェリア、リビア、そしてナイジェリアは、国内のタバコ産業保護を目的に輸入禁止とするか高率の関税を設定（リビア）してきた。一方、マリやニジェール、そして西アフリカのギニア湾岸諸国は、外国産タバコの輸入に制限を設けてはいない。こうした事情を背景に、タバコの密輸がビジネスとなった。

タバコ密輸の歴史は長く、1960 年代にナイジェリアの西に接するベナン共和国のコトヌ港に欧米や中東から輸入されたブランド・タバコが、ベナンからナイジェリアへ国境を越えて運ばれたのが始まりだとされる。1970 年代にはナイジェリア北部地方への密輸のために、ニジェールの商人がベナンを通してタバコの輸入をはじめ、それを北からナイジェリアに運び出すようになった。このタバコがマグレブ諸国へ向かうのは、1980 年代後半からとされる。最初は小型飛行機で運ぶ程度の小規模なものであったが、1990 年代から 2000 年代前半にかけて陸上ルートが確立され拡大を続け、ビッグ・ビジネスとなった。そこには当局の積極的関与もあるといわれているだけでなく、タバコ・メーカー自体の関与も疑われている。

#### 6. 麻薬

サハラを北上あるいは東進して運ばれる麻薬には、マリファナとコカインがある。モロッコで生産されたマリファナは、その一部がモーリタニア、マリ、ニジェールを通過し、リビアからエジプトを経由して中東やヨーロッパの消費地へ向かうとされる。南米産のコカインは、大西洋を渡ってギニアやギニア・ビサウで陸揚げされたのち、マリファナと同様のルートで運ばれていく。2009 年にマリのガオ付近で炎上したボーイング機の調査によって、一度に 5 トンとも 10 トンとも推定される大量のコカインが直接サハラまで運ばれていることも判明した。これら麻薬の運搬にはトゥアレグ武装勢力やイスラーム・マグリブ諸国のアル＝カーイダ（AQMI）などの組織の関与が常に疑われているものの、直接の関与を示す証拠はこれまでのところ発表されていない。

これらいずれの取引も、必要な資金についてだけをみても現地の〈運び屋〉の能力を超えるもので、当局の〈黙認〉はもとより国際的（非合法）組織の関わりが推定される。

---

<sup>1</sup> 各国のガソリン価格は [http://www.globalpetrolprices.com/gasoline\\_prices/](http://www.globalpetrolprices.com/gasoline_prices/) を参照。（2014 年 7 月 28 日）